

IT時代を見据えた児童一人一人のためのインタ - ネット活用の実践研究

地域と学校の融合のもとで児童の課題解決のためのインタ - ネットを利用した協同学校の運営「BeansSchool」
山形県東村山郡山辺町立鳥海小学校 教諭 東海林 新司・新目 巖
<http://www.town.yamanobe.yamagata.jp/schools/chokai/index.html>

キ - ワ - ド 小学校5・6年, 総合的な学習の時間, 豆, 遠隔地交流学習, 協働学習, 地域学習, NetMeeting

1. はじめに

2002年より新学習指導要領が実施される。完全週5日制の下, 各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し, 児童に豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成などをねらいとしている。

これを見据えながら鳥海小学校では「そばウガリプロジェクト」をはじめとする遠隔地協働交流学習を展開してきた。食物に目を向け, 地域に学び, 他校との交流を柱にし, 情報教育, 国際理解教育, 環境教育など様々な学習を融合させた学習である。本校ではインタ - ネットを利用した学校間交流は日常的におこなわれるようになってきたが, 児童同士が互いの名前を呼び合うまでの親密な交流にはいたっていない。そこで本研究では, 新潟県長岡市立表町小学校などの日本国内の複数学校やジャカルタ日本人学校などの協働学習を足がかりにして, これまで以上の交流学習に発展させ, その成果をWeb上に「Beans School」として公開してきた。

2. 実践のねらい

- (1) 豆についての学習を主軸に据えて, 日本国内の複数学校や海外日本人学校などの協力を得ながら学習を深めさせる。
- (2) 課題解決学習を行い, 積極的に地域の人材「地域の先生」を学校に招き, 児童の追究について専門的分野の指導をしていただく。
- (3) インタ - ネットや電話回線などを利用しながら, 児童の積極的な情報メディアの活用や他の学校との情報の交換を行わせる。
- (4) 自分たちの地域と他地域の異なる点や共通する点に目を向けさせながら, 国際理解の素地を育てていく。

3. 実践の内容

(1) 地域の人材の活用

児童が豆を栽培し, 豆の料理や豆についての疑問を調べていく過程で, どうしても自分たちで解決できない場面がでてきた。その際, 地域の方にその疑問に答えていただきながら学習を深めることができた。

(2) 他校との協働学習

鳥海小学校は小規模僻地学校のため, 自校以外の人々との関わりが必要である。より広い視野にたつて自分の学習を見つめていくことができるように交流学校の児童と共に活動する学習を行った。豆腐や納豆のパッケージを他校に呼びかけ集め, 自分たちの学習の資料にした活動などである。

< パッケージ >

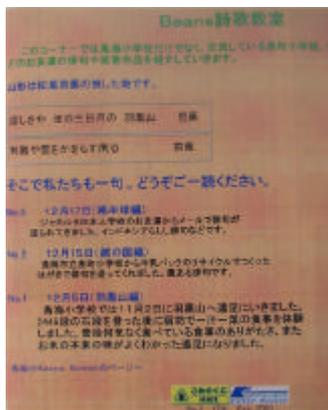
(3) 情報の共有

交流学校がそれぞれ学習した内容をNetMeetingなどを使い互いに報告するオンラインでのテレビ会議や, 互いの活動や学習をホームページで紹介していくことを行った。また, DVDやCD-ROMでのデジタル資料などをつかって情報を共有したりした。活動の後半では3校の児童が俳句や短歌を発表し合うページ, 米を外国に送る時の注意点などの紹介ページなどをつくりWebに公開してきた。またNetMeetingの使用方法やDVD作成のこつなどの技術的な面の注意点も教師の手でまとめたページも作成した。

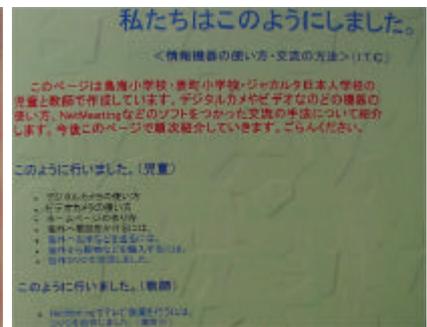
< 交流校の児童と俳句のページ >



< 豆腐屋さんへ質問 >



< 交流校の児童と俳句のページ >



< 情報機器の使い方のページ >

(4) 国際理解の素地の醸成

豆について外国の状況が必要になった児童は、交流学校のジャカルタ日本人学校やカナダに帰国していたALT、昨年交流した中国大同市の教師へメールや手紙で問い合わせ、現地の豆や売られている様子、豆の料理などについて写真を添えて報告してもらい、自分の学習の資料とした。外国の方への直接的な働きかけで日本との違いなどに着目できた。



<中国での豆腐づくり>

<中国での豆の販売の様子>

ジャカルタ日本人学校の皆さんへ
こんにちは、僕は6年STです。
昨日はとても楽しかったです。
ジャカルタとのテレビ電話は初め
だったので緊張してしまいました。
TA君がたくさん感想などをたくさん
出してくれたのが印象に残りました。
昨日の質問に答えます。
山形は、(はえぬき品種)の生産地です。
ほかには、

産地	品種	収穫量
秋田	あきたこまち	490700t
北海道	きらら397	488500t
新潟	コシヒカリ	483200t
茨城	コシヒカリ	328700t
青森	むつほまれ	276300t
栃木	コシヒカリ	264400t
宮城	ひとめぼれ	251400t
千葉	コシヒカリ	238300t
福島	コシヒカリ	210000t
山形	はえぬき	206900t

でした。
日本で一番おいしいお米は
新潟県 魚沼産のコシヒカリといわれています。
わかるのはこれくらいでした。
こちらから送る米を楽しみに待っていて下さい。
そちらから赤い米や、黒い米も送ってくれば
とても嬉しいです。
またネットミーティングをやりましょう。
では さようなら！

(5) ポ - トフォリオによる児童の活動の評価

児童自身が年間を通した活動を振り返り、計画から現在に至る過程を思い出し、改めて「心にのこったこと」、「わかったこと」などを考えた。

それら豆について調べた活動をきっかけにして「自分の生き方」について深く考えつつある。



<作物(種)>

ポ - トフォリオの一部

<ジャカルタへのメ - ル>
<ファイルや地図>

<掲示物>



4 . 成果と課題

成果 (1)児童の課題を解決するための場を学校だけでなく地域、交流校、海外の方へと広げながら活動することによってさらなる課題への深まり、人的ネットワークの広がりがみられ充実した学習へ発展することができた。

(2)交流学習においては、初期の段階では学校対学校の交流でしかなかったが、次第に学級対学級、個人対個人のように相手の顔が見える交流に発展してきた。また、自校や交流校という単位で課題を解決するのではなく、学校の枠を取り払ったグループよっての課題を解決する場面が見られるようになり、遠隔地を意識させない協働学習が成立した。

(3)交流の手段はインターネットに主軸をおいてきたが、それのみにたよらず、場に応じた交流手段を選択する児童が見られた。複数の手段で相手と関わることができるようになった。

(4)毎日のメールチェックなどにみられるようにコンピュータの操作だけでなく、自主的に情報機器や情報に接しようとする態度が児童に定着してきた。

(5)交流学習を進めるにあたり、自校の教師だけでなく他校の教師との授業のための話し合いや情報交換を必要な時、必要だけ行うことができた。本来なら出会うことがない交流学校の教師と協働でプロジェクトを進めた体験は今後のIT技術の進歩の中でも貴重な経験となった。

課題 (1)多量の児童のポ - トフォリオから活動の評価などを行う手法を深めていく必要がある。

(2)回線の容量などインフラの整備について学校間に格差がでてきた。

ワンポイントアドバイス

- ・地域の現状に応じた素材や人材を探す。
- ・NetMeetingなどのオンラインで使用するソフトは事前テストを十分に行い、仮に本時でうまくいかない時を考えてバックアップ体制を用意しておく。
- ・交流学習は互いに信頼できる学校をつくることから始める。
- ・最良の方法ができなくても最善の手を尽くす。